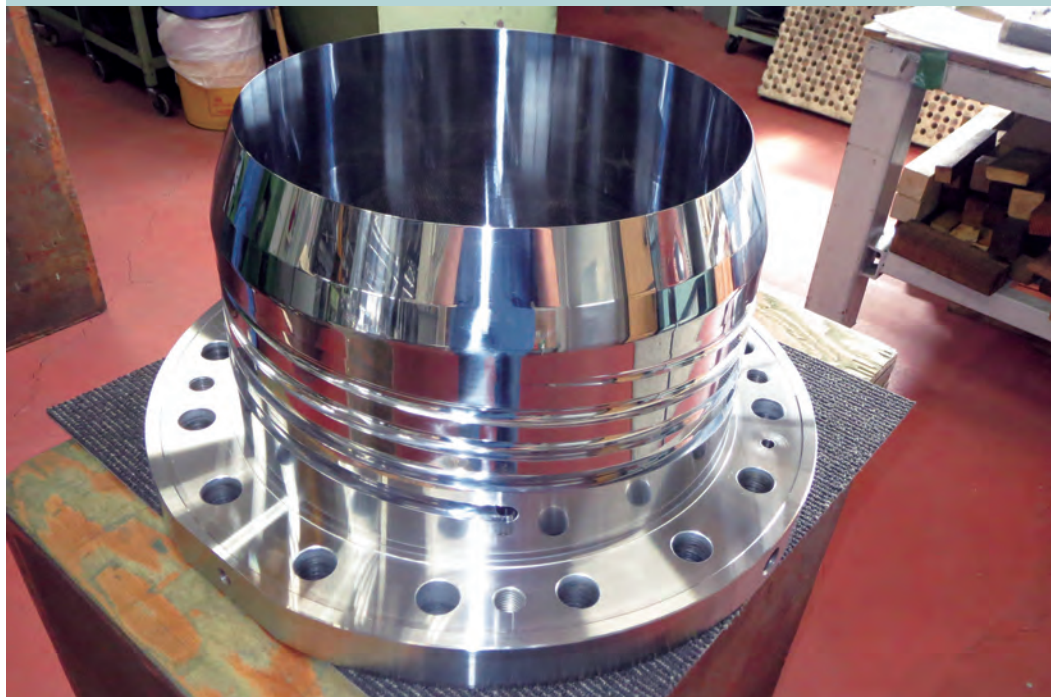


難しい加工も

自社独自改造マシンで解決

納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンリーワン技術
メイドインジャパン
試作可
小ロット



チューブ用金型部品（スパイラルマンドレル）

業務内容 幅広い分野で使われる 押出成形金型の製作

「三高製作所」は、プラスチック押出成形用金型の製作を40年以上手がける。複写機内部に使う中間転写ベルトや、リチウムイオン電池向けセパレータ、医療用チューブ、食品容器などの製作にも、同社の丸ダイやTダイが使われている。

金型の製作において、金属の切削から硬質クロムめっきを施した後の研磨まで対応し、熟練者の技術により完成品は、直径の寸法で3mm以内の高い加工精度を実現。顧客から日々寄せられる難しい要望に応えている。

強み レトロな機械を改造し、 職人の知恵が生きる機械に

金型製作は、職人の蓄積したノウハウが自慢で、30年以上前から顧客ニーズに対応するため、工作機械の改造に取り組んできた。例えば、昭和40年製のフライス盤にNC（数値制御）を取り付け、また、機械に付ける治具を自社で作ることで、従来では不可能だった非常に困難な加工も可能となり、職人の知識を生かせる機械になった。

さらに、金型の研磨時に、独自に配合・成形した砥石を使い、金型のエッジ部分をシャープに仕上げることで異物が付きにくくなり、不良品を抑えた。現在も砥石の改良は続いており「これができるのも熟練工のおかげ」と高須賀孝博専務は胸を張る。

制度活用 さまざまな支援制度を 積極的に活用

最近「大阪府の経営革新計画承認企業」「おおさか地域創造ファンド」「平成26年度補正ものづくり革新補助金」

に採択され、大阪府門真市の「ものづくり企業立地促進奨励金」第一号や「カドマイスター」にも承認された。

これらの助成金や制度を受けて、660mm×2,000mmの大型部品に対応する最新のCNC（コンピューター数値制御）旋盤の導入や、現住所への工場移転も実現してきた。「今後も大阪府や門真市が実施する支援制度に積極的に取り組みたい」と高須賀専務は意欲をみせる。

今後の展望 働きやすい環境を整え、 人材確保へ

製造に携わる社員11名のうち9名が40歳以上で、高須賀専務は今後の技術継承に危機感を抱いており、技術習得に最低10年かかるの見込んでいる。社員を根気よく育てるためにはまず、若手人材の獲得が不可欠だ。そこで、平成22年の工場移転を機に、工場内にエアコンや温水洗浄便器を導入し、現場環境の改善に取り組んだ。これ以外にも多目的ホールなどさまざまな整備も進めた。

今後も環境整備を継続し、「今後、年に1名は技術者を採用したい」と語る。これまで関係が希薄だった地域企業との情報交換も積極的にしながら、地元の若者の採用に力を入れていく。



最新の大型 CNC 旋盤



「三高製作所」の従業員

当社の歴史



昭和38年創業のプラスチック押出成形用金型のメーカーで、複写機内の中間転写ベルトやフッ素樹脂フィルムなどを作るのに必要な金型を手がけています。熟練工が持つノウハウを駆使することで、高精度な金型を提供できます。これからも技術力の高さを生かし、顧客の要望に応えていきます。

代表取締役専務 高須賀 孝博さん

主な事業内容

各種プラスチック押出金型
および金型部品製作、各種
開発商品試作

主な取引先(納入先)

プラスチック押出成形メーカー、
樹脂加工メーカー、
化学メーカー

●住 所

〒571-0017
門真市
四宮6-1-1

●TEL

072-884-1011

●FAX

072-885-6011

●創 業

昭和38年10月

●設 立

昭和48年3月

●資本金

1,000万円

●従業員

14名